

## 「特別支援学校就労・職場定着促進事業」について

今年度からスタートした「特別支援学校就労・職場定着促進事業」の概要を紹介します。

**【事業目的】** 職場定着支援員による定期的な職場訪問や卒業生と事業所双方への相談支援等により、事業所の障害者理解を深め、職場定着につなげる。また、中学部段階からの職業教育を充実させ、一般就労希望者の増加を図る。

### 【事業内容】

#### 1 職場定着支援員の配置（1名）

今年度は、栗田支援学校に職場定着支援員を配置し、県央地区の特別支援学校卒業生の就労先への訪問や事業所の理解促進活動を行います。就労先から離職につながりそうなケースの相談があった場合は、各特別支援学校に情報提供し、手厚い追指導ができるようにします。

#### 2 職場定着対策会議の開催（推進拠点校：能代支援学校、栗田支援学校、横手支援学校）

推進拠点校において、年2回、地域の特別支援学校と関係機関の担当者との意見交換の会を開催します。9月14日に能代支援学校で行われた第1回職場定着対策会議では、ハローワーク、障害者就業・生活支援センター、卒業生の就労先事業所から参加いただき、職場定着及び事業所の障害者理解等の促進に関して、それぞれの立場からの意見をうかがいました。



能代支援学校の取組の紹介



関係機関担当者との意見交換



#### 3 「中学部段階からの職業教育」の充実（推進拠点校）

職業教育の充実に向けて、中学部段階で必要な資質・能力の明確化や、進路学習及び作業学習の在り方の見直し等に取り組んでいます。また、中学校特別支援学級の進路指導等の参考になるように、特別支援学校における職業教育について、積極的な情報提供を行います。

#### 4 「理解促進」「実践発表」の機会の充実

7月に予定していた職業教育フェスティバルは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止となりました。10月から県内3地区で開催する職業教育フェアでは、技能競技会（喫茶サービス、ビルクリーニング、縫製）を行い、地域の一般企業等の方々に理解を深めてもらう機会とします。

本事業で得られた成果については、県内の全特別支援学校で共有していきたいと考えています。

## インクルーシブの風

このコーナーでは、インクルーシブ教育システム(※)の推進の観点から、各校種等における特別支援教育に関する取組や交流及び共同学習の様子などを紹介していきます。

### ※インクルーシブ教育システム

人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするという目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み

## 小・中学校における特別支援教育の充実に向けて

### 大館市教育委員会「発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業」

大館市教育委員会は、昨年度から2年間の計画で、市立の全小・中学校を対象とした「発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業」に取り組んでいます。これは、文部科学省の「発達障害の可能性のある児童生徒等に対する教科指導法研究事業」(右図参照)の委嘱を受けて実施しているものです。

昨年度の成果報告書から、取組の一部を紹介します(成果報告書は、文部科学省のHPに掲載されています)。

#### 1. 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する教科指導法研究事業

通常の学級における担当教員の質の向上を図るため、教科ごとの学習上のつまずきなど、発達障害の可能性のある児童生徒に対する効果的な指導方法の研究を行う。また、教員養成課程における教授方法の開発を行う。

【教育委員会、大学、学校法人 24箇所】



文部科学省HPより

#### 【主な成果(教科教育スーパーバイザーの授業観察による、特性に応じた指導方法の検討から)】

- ・秋田の探究型授業、「おおだて型AL(アクティブ・ラーニング)」など、市内で定着している学習過程や学習活動には、発達障害の可能性のある児童生徒がつまずきポイントが多いことが分かった。2年次は、学ぶ目的の分かりやすさに配慮した「小さなアクティブ・ラーニング」で構成した授業を実践し、検証する。
- ・社会科では、新出用語の多さによる不安があり、事前の学習予告や予習が有効と考えられる。
- ・理科では、実験や観察の目的が分からず、不安で参加できない場面があり、ゴールの明確化、実験・観察の際の着目ポイントの明示等の工夫が必要と考えられる。

#### 【今後の課題と対応】

- ・発達障害の可能性のある児童生徒に対する支援は、行動・態度面や関心・意欲に視点を当てがちであるが、1年次の研究結果から、児童生徒の思考のプロセスを想定して「情報入力」「情報のイメージ化」「情報統合」「情報処理」「表出・表現」への支援を考えていくことの重要性を確認した。
- ・2年次は、対象児童生徒のつまずきに対応している授業の好事例から、特性に応じた有効な支援や具体的な手立てを蓄積し、それらを個別の指導計画の新様式に反映させ、市の教育理念の一つである「一人たりとも置き去りにしない」授業実践を全教職員に広げていきたい。

小・中学校における特別支援教育の充実に向けて、大館市教育委員会の取組は、とても参考になります。今年度の事業内容である、特性に応じた指導方法の検証や個別の指導計画の活用等の研究が進み、成果が全県に発信されることを期待しています。

## 交流及び共同学習の充実に向けて

### 大曲支援学校せんぼく校「障害理解授業を踏まえた学校間交流の取組」

せんぼく校では、学校間交流や居住地校交流の事前学習としての障害理解授業を、今年度から学校全体で行っています。7月に仙北市立西明寺小学校で出前授業を実施したほか、現時点で5校から依頼を受けています。

小学部と西明寺小学校4年生の学校間交流は、せんぼく校開校初年度の平成28年度から始まりました。学校を交互に訪問する形で、年に2回実施しています。出前授業では、「せんぼく校の友だちの得意なことや好きなこと、苦手なこと」を紹介した後で、楽しい交流にするための「仲良し作戦」を考える時間を設けました。活動グループごとに、「好きな歌を一緒に歌う」、「大きな音が苦手な友だちには小さい声で話す」などの作戦を立てることができました。



せんぼく校の児童の大好きなだんご虫に、みんな興味津々です。



グループのみんなで考えたポーズでジャンプ！

1回目の交流会は、7月15日にせんぼく校で行いました。校内を巡りながらクイズを解く「せんぼく校クエスト」に取り組む中で、「仲良し作戦」がうまくいくとグループのみんなが笑顔になり、うまくいかなかったときはひそひそ声で相談。少しずつお互いの気持ちが近付いて、笑みを浮かべながら活動する様子が見られるようになりました。

今回の交流会では、西明寺小学校の児童が相手の気持ちを考えて関わろうとする姿が多く見られ、出前授業のよさを実感しました。その思いを受けて、せんぼく校の児童が自分から友だちに働き掛けようとする姿も随所に見ることができました。2回目の交流会では、どんな「仲良し作戦」を考えてくれるか、とても楽しみです。

(大曲支援学校せんぼく校 教諭 佐々木 奈織)

小・中学校や高等学校では、特別支援学校のセンター的機能を活用し、障害についての正しい理解を図るための障害理解授業を実施する学校が増えています。交流及び共同学習の事前・事後学習のほか、総合的な学習の時間等における実践例もあります。障害理解授業についてのお問合せは、各特別支援学校までお気軽にお寄せください。

## おめでとうございます

### 「令和2年度秋田県学校関係緑化コンクール」受賞校

- 学校林等活動の部 「知事賞」 県立能代支援学校
- 学校環境緑化の部
  - 「東北森林管理局長賞」 県立比内支援学校
  - 「県森林組合連合会会長賞」 県立比内支援学校かづの校
  - 「秋田県森と水の協会会長賞」 県立大曲支援学校
  - 「県山林種苗協同組合理事長賞」 県立比内支援学校たかのす校、県立支援学校天王みどり学園



今年度は、小・中学校、特別支援学校から、2部門に計16校の参加がありました。「学校林等活動の部」では、能代支援学校が2年連続の知事賞受賞となりました。いずれの受賞校も、緑化に対する児童生徒の活動が高く評価されました。